

# 令和 5 年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	65	学校名	茨城県立牛久栄進高等学校						課程	全日制				学校長名	大崎 弘美			
副校長	棚谷 克彦		教 頭		豊崎 泰史								事務長名	塩田 佳子				
教職員数	教諭	62	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	2	実習教諭	1	事務職員	4	技術職員等	4	ALT	1	計	81
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数					
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	普通科		156	164	162	153	150	162			468	479	24					

## 2 目指す学校像

変化の激しい社会環境に柔軟に対応しつつ、多様性を尊重し、新しい価値を創造するために必要な自主自律の態度と豊かな人間性を身につけた創造性豊かな人材を育てる学校

## 3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広範な知識、優れた技能、広い視野に立つ判断力を備え、各分野・領域において多様な人々と協働し、自ら問いをたて、課題を見つけ、暮らしやすい社会の創造に寄与するために常に学び続ける人材を育成する。</li> <li>・ 適切な自己表現・自己開示ができ、良好な人間関係の構築を目指す人材を育成する。</li> </ul>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位制高校として、多様な興味・関心に対応した多様な科目選択が可能な教育課程を編成し、実施する。</li> <li>・ 主体的な工夫や改善を伴って知識・技能を習得し、その過程で培われる見方・考え方を働かせて、自然、社会、人間、衣食住、健康、スポーツ、文化、芸術、地域等に関する深い洞察力</li> </ul>

別紙様式 1 (高)

	、的確な判断力、根拠に基づいて説明する力の育成を目指した学びを実施する。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知的好奇心が豊かで、自分の興味・関心を追い求めかつ利他の心を大切にしている生徒</li> <li>・ 学校内外での様々な活動に積極的に参画し、目標や夢を設定し、自己実現を達成しようとする生徒</li> <li>・ 学び続けることで習得する知見や技術を未来の社会に役立てる意欲がある生徒</li> </ul>

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
教科指導	生徒それぞれの教育的ニーズに応じ、単位制の特長を最大限に生かした教育課程の編成、選択科目の講座の開講に努めている。「1分を大事にする授業」を意識し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、年次・教科で指導の改善に取り組んでいる。また、ICT機器等を積極的に活用し、教育課程の整備を推進している。生徒それぞれの教育的ニーズに応じ、単位制の特長を最大限に生かした教育課程の編成、選択科目の講座の開講に努めている。「1分を大事にする授業」を意識し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、年次・教科で指導の改善に取り組んでいる。また、ICT機器等を積極的に活用し、教育課程の整備を推進している。	教員それぞれの授業内容・教授法に関する研究・研修をとおして資質向上を図る必要がある。そのために、校内での教員相互の授業参観及び校外研修のフィードバック・リフレクションに加え、教科による先進校視察の実施が肝要である。また、主体的な学びを促すためICT機器の効果的な活用を図りつつ、教員同士の対話を深める工夫。
特別活動	様々な学校行事への取り組みにおいては、生徒たち全員が大変積極的に取り組んでいるが、生徒会や委員会活動への自主的な参加はまだ十分とは言えない。部活動は加入率が高く、運動部及び文化部とともに、全国大会や関東大会など、よりレベルの高い大会への出場を目標にして活発に行われている。	生徒会・常置委員会、部活動の存在意義とその必要性について理解を深めさせ、生徒の自己管理能力を高めるとともに、生徒の自主性を育むために、自ら考えて積極的に行動する力の育成を教員自身が考えていく。
生徒指導 教育相談	基本的な生活態度は身に付いており、礼儀正しく真面目な態度であるが心因性の悩みを抱える生徒もあり、教育相談等を必要とする生徒は少なくない。また、交通事故や不審者遭遇等の発生件数は減少傾向にあるが今後も安全教育の徹底が求められる。	生徒同士の人間関係形成能力や規範意識の更なる向上、及び課題を抱える生徒の早期発見及び保護者・関係機関との連携を如何に図るか。生徒に危機察知及び回避能力等を如何に身につけさせるか。
進路指導	ほぼ全員が4年制大学への進学希望であり、より高い進路目標の実現に向けて、個別面談を充実させるなどきめ細かな指導を行っている。その結果、近隣地域に限定されない地域にある大学等の進学者を輩出することができた。	社会の変化を踏まえ、一人一人の生徒に自らの進路についてしっかりと考える機会を提供し、本人及び家庭の考えをしっかりと受け止めた、個別最適化された進路実現ができるよう、学校全体として組織的に指導を行う。

5 中期的目標

- 1 『活力ある進学校』・・・ 一人一人の個性と創造性を最大限に伸ばす、『活力ある進学校』を目指す。
- 2 『個に応じた学習指導』・・・ 単位制のシステムを生かし、個に応じた、より深い探究学習を展開し、実践する。
- 3 『自主自律の人づくり』・・・ 主体的に行動し、自分の未来を自分自身で拓く、『自主自律の人づくり』を目指す。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
教科指導 ー主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業展開ー	ア 新学習指導要領に対応した、単位制のメリットを生かす教育課程の編成及び主体的・対話的で深い学びの実現を目指した質の高い授業を目指し、生徒の学力向上を図る。 イ カリキュラムマネジメントの視点から教科を越えた協働体制を構築し、「チーム栄進」として新学習指導要領に対応できる教育活動を実践する。 ウ 観点別評価についての研修を実施し、評価のベースを作る。教科内におけるコンセンサスを獲得する。
特別活動 ー積極的に参画する活動の促進ー	ア 生徒会活動、部活動、学校行事をとおして自主的精神を養い、行動力を培うとともに、より良い人間関係の形成を図る。 イ キャリアパスポートを活用して自己理解を深め、生徒が自己の良さを生かし、自己肯定感を得られるようにする。 ウ 生徒同士、教職員と生徒が相互に敬意を持って学校行事などに参加し、活力ある学校づくりを推進する。
生徒指導・教育相談 ー良識ある行動をとり、自己表現が適切にできる生徒の育成ー	ア 成人年齢の18歳への引き下げを視野に入れ、学校生活全般に於いて生徒の規範意識の高揚と道徳的実践力の向上を図り、自律的で調和のとれた生徒を育てる。 イ 他者を尊重する態度を養い、生命の尊さを認識させるとともに、安全教育を重んじて生徒の危機察知及び危機回避能力を高め、事故やいじめの未然防止に努める。

別紙様式 1 (高)

	<p>ウ 良好な人間関係の構築と適切な自己表現・自己開示ができる生徒を育てる。</p>
<p>進路指導 －生徒一人一人の進路希望の実現を目指した丁寧な指導－</p>	<p>ア 教員一人一人が進路指導力を高め、生徒の進路希望を高い次元で実現できるよう全教員で研鑽に努める。 イ 各年次や各教科と「進路指導部」が連携し、保護者も含めて生徒に対し、適切な情報提供・及び面談・学習指導の充実を図る。</p>
<p>国際理解教育の推進 －国際交流と海外派遣－</p>	<p>ア 国際交流事業を通じて視野を広め、世界各国の文化への理解を深めることで、グローバル社会で活躍する人材を育成する。 イ 海外派遣等を実施し、体験をとおして、自国の文化の理解を深め、異文化を理解・尊重する国際協調の精神を育てる。</p>
<p>保護者及び地域社会との連携 －地域に開かれた学校づくりの推進－</p>	<p>ア 学校 HP や各種メディアを活用し、本校の教育活動や学校情報を積極的に広報・発信する。 イ 保護者と学校が連携を密にし、生徒の健全育成と進路希望の実現に向けて協働・支援する。 ウ 学校説明会や各種説明会、中学校訪問をとおして、中学生や地域社会に本校についての理解を更に深めてもらう。 エ 地域との連携を強化して、地域活動等にも積極的に協力し、地域社会の期待に応え、信頼される学校作りに努める。</p>
<p>学びがいのある環境・働きがいのある職場づくり －環境整備と働き方改革の推進－</p>	<p>ア 国や県の施策を踏まえ、教職員が同僚性を尊重し、教育の質の向上が図れるよう、働き方改革を推進する。 イ 事務室と連携を図り、生徒の学習環境、職員の働く環境をハード面・ソフト面で整備する ウ 危機管理を意識し、整理整頓清掃を心がけ、学びやすく働きやすい職場環境を構築する。</p>
<p>授業改善 －授業改善からみる授業満足度－</p>	<p>ア 教員一人一人が授業の目標、課題を分かりやすく設定した上で、教え方を工夫する。 イ 教員一人一人が生徒の学習の様子を把握し、適切なアドバイスをし、生徒の疑問に適切に応じる。 ウ 教員一人一人が授業を通して、生徒に知識・技能を身に付けさせ、また授業を通して考えたり表現したりする力を育てる。 エ 上記のア～ウにより、学校全体の授業満足度の評価平均として3.3を目指す。</p>